

(二) 学習の手引き、個人学習資料の作成

学び方を身につけさせるために、社会科学学習のしかた(単元、単位時間の流れ)、個人学習のしかた、課題づくりのしかた、資料の見方、話し合いのしかた、ノートの取りかたなどをもちこんだ学習の手引きを作成し、児童に与えた。

また四種類の学習資料を作成し、児童が主体的に調べることができるようにした。

(三) 単元のガイダンス

単元の学習内容についての興味・関心を持たせ、学習意欲を高めるとともに、単元学習への見通しを持たせるようにした。

(四) 学習訓練を組み入れた授業実践

毎時の学習過程に、学習訓練を意図した個人学習の場を設定し、児童に取り組ませることによって、基礎的な学習技能が身につくようにした。

以下、「わたくしたちの生活と水産業」における授業実践の一部を紹介してみた。

○ 単元の導入で

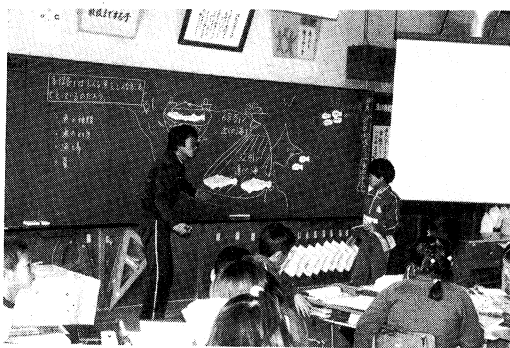
「水産物は重要か」という問いかけでガイダンスを行った。夕食のメニュー、水産物の摂取量グラフなどから、はじめは、「魚なんかいらぬ」といっていた児童もその重要性に気づき、課題づくりや個人学習に進んで取り組んだ。

○ 単元の展開で

この段階では、一単位時間一サイクル的な授業展開を行い、とらえる(課題づくり、予想) ↓ つきつめる(検証) ↓ まとめる(発展)のパターンを継続しながら、課題設定、資料活用、話し合い、ノートの取りかた。

表2 指導案〈第7時「魚種による漁法の違い」の授業から〉(5年)

段階	学習活動・内容	時間	教師のはたらきかけ	期待される児童の反応	◎研究仮説との関連・留意点	
つきつめる	3. グラフ、地図などから漁業の様子をたえる 魚種、漁場、水揚げ量 漁法 魚の生活 漁法の工夫	23分	⑤ 釧路ではどんな魚がどのくらい水揚げされるのか、またその漁場は、どんな方法で魚をとるのだろうか。	・ いわし68万トン北海道の沖合で、たら32万トン、ペーリング、カムチャッカ沖合、いわしはまきあみで、たらは底引き網で	◎ グラフ、表、地図などから読みとらせ、話し合い、発表させる。 ・ (資料の見方、話し合いながら黒板にまとめさせる。 ・ 「なぜ違うのか」という問題意識を持たせる。	
		6分	⑥ 魚によって漁法がちがうのはどうしてか。	・ なぜだろう。 ・ いわしとたらは生活の違いからじゃないかな。 ・ いわしの泳層、スピードは… ・ たらは…	◎ 個人学習資料のどこにのっているか確認し、調べ合わせる。(資料の見方)	
		5分	⑦ いわしやたらはどんな性格の魚なのだろうか。	・ こんな方法だったらとれるんじゃないか ・ この魚はこう泳ぐから	◎ いわし、たらそれぞれさきで漁法を絵にかかせ、発表させていく。(描図、構成)	
		6分	⑧ どんな方法でとればよいか考え、絵にかいてみよう。			



第7時「魚種による漁法の違い」の授業風景

などが身につくように配慮しながら実践してきた。

次に、学び方の指導が生かされてきているかを確認するために設定した授業のようすを述べてみる。

◎ 調べる視点

水揚げされる魚、量、場所、方法、魚の生活などの調べる視点や内容のほかにグラフ、表など方法的な視点も出された。

資料の見方、話し合い

グラフ、表、地図から読み取り、積極的に話し合った。

発表のしかた

黒板を使つての発表にも意欲的になり、活気にあふれた。

展開段階の実践を通して

学習のしかたがつかめてきた。

資料の読み取りに時間がかかるが、その方法がとらえられてきた。

話す、書くことへの抵抗が少なくなってきた。

という傾向が見られた。

○ 単元の終末で

単元のまとめとして、「日本の水産業の将来は」という討論会と水産業新聞づくりを行った。

水産業新聞づくりに対しての指示は構想メモをつくる

・ タイトルは見やすくする

・ 絵やイラストを生かすである。

・ じょうずとは言えないまでも、どの児童も楽しく作っていたことが印象的であった。

五、研究の成果と今後の課題

(一) 成果として

○ 学習のしかたがわかり、見通しを持って学習するようになってきた。

○ 資料活用をみるテストで好結果をおさめたことなど、資料を読みとる力がついてきた。

○ 計画表を見る、図書館を利用するなどの好ましい様子が見られた。

(二) 課題として

○ 個人学習を更に生かすための手だてを工夫し、個性的な社会科学学習ができるようにしていきたいと考えている。